



備前

河内文系

肥後 肥前 筑前  
長門 周防 石見  
出雲

四卷

5  
2873  
4





























○清湯乃言務よゆけりて入水也。おろはふは

灘七里の帆風心うほせ。肥前乃國月比の里ふきよなり

○長崎 貞享元子九月二日肥前長崎に社乃礎とつゝぬ

まゝもかひく倍へやうよ十倍と繁昌常耀の境地又

まゝびなり。九方を重し我園に。一かを群航乃海大はまり

江山畫裏四面とらち。舟濱市中は本と入る岫瑞寺社

と撃ケ。彩氣梵門を掩。丹霞指羅乃ういぬりとするせも幣

風古松よ付声とらる。まゝ唐刹の三ヶ寺。金玉異

曲乃雕匠。みんまゝ言あ。却よめまぬ奇扉あり。時あ

うふ。廉直仁慈乃徳浪き。和漢同風乃びらとつゝぬき。寶

物称財と運ぶ後杭き。まび追いていやさるなり。されは

人乃凡俗。四夷八蠻乃るの軌。と産物。鬻物。唐僧来朝乃

由來。まゝくつ吉刹支丹船發来乃事。近くる貨物刻府に

糸と。通事くふらる。まゝ世の圖海路乃記して。細

書。將來しむこと。あらうま事。驚きまも略と。大要と

いとも。只阿常後航のまゝなり。長二十。七間。横十八。九。るふ

四。まの階。揚。のま。彩。まの奇。扉。又乃帆。千。ヤンの總。は。ま

車。操。と。ま。の。神。意。自。在。な。る。ま。三。國。一。の。入。物。な。り。是。は

船。と。ま。の。和。朝。の。面。土。の。の。ま。あ。と。か。や。の。抄。と。は。海。路

乃。ま。の。中。く。言。輪。よ。ま。か。と。あ。は。ら。あ。い。い。入。一

ま。の。海。路。一。路。と。海。路。の。れ。は。ら。ら。る。れ。を。何。船。の。ま。と

大。坂。の。り。ま。の。小。倉。ま。ま。と。百。三。十。里。小。倉。の。り。隆。海。五。十。里。合

百。八。十。里。の。り。の。小。倉。ま。ま。と。百。三。十。里。小。倉。の。り。隆。海。五。十。里。合

予。い。け。秋。の。ま。の。二。月。の。末。ま。ま。と。見。ゆ。せ。の。今。あ。ら。は。ら。は



かたき。園のちりきりげ也。ありれ。命はる。今て。ひと  
わづらひ。よまん。依り。も草鞋の細く。より。同士の。誰れ。棟  
梁。薪休亭。お。 ○投金。乃。氣と。磁。富り。風。雜。仙  
鳥。河。の。あ。て。 遊宮。む。霧。ま。者。る。 薪休居士  
内田氏

○松。森。の。神。神。藤。櫻。の。天神。具。験。云。ぬ。乃。指。籬。連。誹。の  
會。所。揚。堂。乃。會。ふ。し。神。主。六。位。の。さ。ら。し。あ。と。の。園。社。の  
記。と。う。ま。い。 ○幣。拵。神。や。も。深。の。揚。堂  
新乃。櫻。や。と。た。た。る。縁。文。拵

○菊。六。目。り。 ○西。都。菊。の。て。子。さ。れ。は。あ。り  
○け。と。も。つ。ま。も。 ○款。と。戸。額。と。て。や。置。る。これ。を  
宿。根。木。津。町  
丙。水  
吉。田。氏  
旅。休  
月。夜。追。ま。り。神。乃。信。西。の。秋  
津。流。乃。秋。風。遊。杭。船。の。痛。仿。船  
柴。田  
安。之

○心。野。氏。薪。舟。若。人。乃。下。所。さ。あ。の。園。乃。き。き。釋。よ。  
わ。り。し。あ。の。地。さ。れ。も。余。の。膝。を。か。く。も。の。信。乃。あ。薪。信  
よ。あ。わ。れ。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
序。一。と。余。の。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
○兩。吟。序。ほ。く。よ。も。あ。あ。つ。つ。あ。ま。り。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
野。乃。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
と。あ。の。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
に。信。と。饒。ひ。つ。わ。り。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
後。饋。と。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
禮。上。乃。堂。と。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ  
うち。滞。り。業。先。昧。轉。疎。さ。り。瘦。靴。の。鞆。と。あ。ま。り。あ。め。て。抱。む。は。さ。し。あ。あ。冬。み。ら。ぬ。き。よ



孤村の草煙とらんよ。あまの草煙とひらへ。あひりまの月  
ひらひらひらひら。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
又下略 玉葉を鮎子靴も 数代あま

出野氏 薪舟

かきこいさやむいよ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
○産し宿務乃屋信し。宿務乃屋とあまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
兼一。寓言堂玉風子。康非の那天とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
よけきと拍して。粟敷とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
まゝ袍と。後よまゝ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
芋かいらふ後と。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
仁あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
おまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。

あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
まかしく想せと。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
乃あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
兼一 みるの十海遊るまゝ

右二巻備 兼一

かきこいさやむいよ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
○あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
のあまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
逸園の菊と肥と。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。  
者陶徳丁と。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。あまの草煙とひらへ。

兼一







菊を紅くもくもく。菊の園のうらやま

○菊を紅くもくもくとめておゆわ

○月おほすたをゆきかきかき

かきかきかきかきかきかきかき

○人々の神の族  
おのり白くもくもく  
多く薪休の巻の詞  
花の一章よ白く  
ほくくく序の略

言夕  
大塚氏  
石橋氏  
泉谷

○庭の記をうた  
○しらばくもくもくとさつてさつて

野田氏  
重交

○あつちの巻よ隣り  
ほくく行徳かきくもくもく。骨川の氣しゆかきかきかきかきかき

くは花のかわりもくもくと赤肉中臺の相成秘と。回曼不離の和

葉かきくもくもくとさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

あつちの巻よ隣り  
ほくく行徳かきくもくもく。骨川の氣しゆかきかきかきかきかき

○あつちの巻よ隣り  
ほくく行徳かきくもくもく。骨川の氣しゆかきかきかきかきかき

○丸山艶文  
まじりもくもくとさつてさつてさつてさつてさつてさつて

乃てさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

凡そ千二の巻の巻をさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

不乃巻の巻をさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

獨よもくもくとさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

の膏波の巻をさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

とや太門の巻をさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて

耳をねくもくもくとさつてさつてさつてさつてさつてさつてさつて



あつひらき 桑欄をくく 縁をよと 髪をかき 又 階を同じく 感さ  
又 庵に入て 淵をくく 捨をふた 縁をくく 縁をくく  
よぐく 縁の骨をくく 鼻をくく 鼻をくく 鼻をくく 鼻をくく  
わく 骨をくく のたをくく 内をくく 内をくく 内をくく 内をくく  
わがくく 内をくく 又 使の 杖をくく 杖をくく 杖をくく 杖をくく  
狸好 美乃くく 美乃くく 美乃くく 美乃くく 美乃くく 美乃くく  
庵をくく のたをくく 骨をくく 骨をくく 骨をくく 骨をくく 骨をくく  
甲の 目近 目近をくく 目近をくく 目近をくく 目近をくく 目近をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
後を 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく  
神を 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく

後を 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
後を 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく  
神を 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
よ 扱を 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく 扱をくく  
後を 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく 後をくく  
神を 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく 神をくく



只わくへりきれりて一けり多りあつてその  
みらも自性自通をさるるつゝもるなり。凡聖乃令月與  
よきうは騰分野分不相死。各各の室よりつり憐のたきく  
懐妊乃つりあると徒とてむびあひあひ月とあつてんあつて  
且つれも又學ちあつてつてず。○念月のたひもまもる思思  
○柳女誘休をさるる一字か訓ぐとて枕園とあるにありて。  
○忍銘 大哉寛樂哉。忍乃一字も。衆妙乃玄基。神仏も生  
乃太衝門あり。謙退を我の父母とてよと教へし小知し。  
慈なる常一の仁帝。三徳乃めま儀乃係在なり。慈願智海  
乃無礙の徳を善乃材なり。い思とてくじぬばも。天地陰陽  
和正平等の事理不二の大門口とて。胸裏別乾坤とて天はもと  
あり。胎と圓と金殿と。冷水をさるる七徳さるることなるとい

於寛大さるる忍むをたれひうか忍

忍牛にのりぬをたをわつてた賢愚神画のいぼはほ  
一離るるも敵も不使さるる所を思てふとまのふ別あり

又かろ ○風よあつて海をくまると膝う柳ちか

○當後傳のあつて元年の時海月。

○腰乃布き深川人よ梅

○隨有堂一夢禪袖三吟序 有ゆ是を乃とせ海より不

二中堂の月顔とていげと喚無即是有の浪のうらありを

別色もあつて恥れをし海まで延び世と人かあつてと又も

あつてつとつ海のたれもまもるやまもさるるあつて地は  
植へも奇樹もさる。居へも異るもあつてつとて有漏の是  
本省へも加乾坤とて。只眼の色堂一如の眺艶さるるべし。



けいこの猶一宇の雲門あま。あつらひもあつらひのたぬ。さか  
や風名入の露と東の幻野の休あるん。夢と負海と懐も。  
月光ひらめくけらめんき。ちりりさうまの傳とむつ。うや  
新贖別傳の龍風さほど。ほれちまうし臂と顔と信とみまの  
月氏の下十境と顔に。なりぬの四の小景と膝も。お座の静  
氣宵のうたえ。圓鏡の福園をのづら。和と軒と隨有堂とよびて  
有ふとさうまよとうけり。夢と名たうまの世と  
彫りのまことと。むらりのかまこと。の體と膚と。渾身園とあつ  
らひ。まこと。四六の麓板とて。と通の御。はか。この静  
菴の五瀟樹のわ戸と。と。面自花のたれと。か。後心  
合掌の母。の。も。石。頓。彫。の。非。月。は。色  
さうま。の。ぬ。息。まり。む。あ。う。ま。六。根。の。僕。の。給。意。と。と。あ。

三毒の丁の代と免。只一心八素人の侍者を氣化よ  
はつひ。平坐の世とまう。い。変化と。音。任。と。三。音。乃。音。翁  
まじひ。不言。非。信。の。歌。して。光。陰。と。を。つ。か。と。と。れ。と。あ。ふ  
抱。よ。風。と。魂。と。と。と。ら。い。花。ふ。ま。に。籠。九。信。と。想。の。あ。は。と。一  
瘡。に。あ。つ。ら。み。一。耻。突。提。と。陶。と。さ。あ。の。朋。友。の。眼。ひ。あ。合。の  
ま。う。茶。と。飲。と。と。そ。れ。海。と。除。と。野。納。同。氣。の。室。世。と。や。つ。ら  
ま。は。わ。く。と。梅。心。祥。の。自。ひ。は。鼻。う。ら。す。つ。と。ま。う。と。え。居。て  
え。と。ま。や。あ。ぬ。ま。や。む。の。と。と。と。と。と。と。の。あ。ら。と。一  
梅。と。作。磨。庭。前。の。梅。樹。と。一。の。代。吐。と。花。と。小。東。文。隆。と  
倉。裕。と。茶。と。み。あ。く。る。人。言。と。夜。と。几。聖。不。二。門。の。鍵。と。と。づ  
く。服。自。然。着。つ。や。も。め。と。ひ。て。新。休。は。神。目。ら。と。う。い。ま。か。ら  
福。回。色。た。の。缺。ま。う。つ。と。吟。と。と。ま。う。と。時。お。折。合。後。して。



筆ふむるをいそぐ。紙へあまを白く。視屏鼓を寫すか色

下如りて成もまこと。多宝舞ひ天宮としゆり。弥仙三

十の方億の憶微男よつるぬ。色雨神乃眠とて。幸ふら

雪れあも保のふ。雜緒くやうのめまの目ろ。や石乘時奈

不き。又ま唱とく。響と。吐とし。ふり。そえ氣丁水の居て

ちま。又薪休宿。大横と風く大塵よひぐも。自ひあめつて

とく。下枝の梅花と拵く。嫩笑を嘆くしくいぬ。

○應無所住のち。と。○さうと。心よ音をたる。梅の花

○薪休を母。陸終の心。あらうと。ふく人。ふく。ふくの香。一夢享

の事。ふく。ふく。軸。正。福田よ。続の。継。月。さゆ。薪休

あう。心。眠。と。て。廻。て。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼

○すは。諸別。と。く。性桂尼







俳句三千妙出倫 歌逐西行風雅淨 筆摸弘法艸書新  
觀身恰似雲中鶴 論跡猶如天外人 曾有瑞岩頻喚主  
教君幾乘自家春 管窺閑藏頭陀梅巖慧舟州具

○勢州吞空友翰老叟自號為三千風者有自來矣余又  
知其風亦知其人詎可默而止之然而三千之風大率以  
風雅頌為體猶且以諸風為用若論其風颿風自南谷風  
自東泰風涼風自西北喜風生春怒風生夏清風裂風生  
秋冬旋風作于一時信風發于四侯暴風吼于百里細風  
及于十方風者山林之怒號天地之噫氣也起青蘋之末  
緣太山之阿浸滲乎谿谷之中徘徊乎松柏之下拔春樹  
而如振帶秋蓬而似輕舞微雪以飄零飛遊絲以陰映時  
以清清冷冷時以啾啾颼颼躋羅帷而經洞房響金扉而

搖玉階拂九層之羽蓋轉五采之珠旒上雀臺而霞生下  
鴻池而蓮散萬竅為之鼓動木鷓為之退飛列子以之乘  
虛玉喬以之控鶴中林靜拂寧喧許子之飄圍葉孤翻似  
拂班姬之扇蕭條注耳擦亂披襟聞颯然鳴條之音挹薰  
兮動地之氣條而江山雲蕩忽焉湖海波騰能令六合迴  
輪可使四方易位此風之驟也故天有好風之星地有來  
風之穴胡漠有依風之馬靈臺有相風之鳥西海有起風  
鯨南海有向風之獸宜都有吹風之井永州有已風之蛇  
奇肱有從風之車鳴陽有占風之鐸或曰大主少女或曰  
君子小人或曰羽客鄭公或曰幽人烈士四轉五復而亂  
飛石揚沙而狂扶搖羊角而飄蓬勃觸塵而蔽侵骨侵肌  
而殺極天翻地而驚不辨方位而痴無分晝夜而黑州木



榮枯而離合山崖披拂而官商發屋拔木貪狼撼岸拍天  
而跋扈以關之東西下其晴日雨日以雲之出入驗其太  
鳴小鳴以歲朔之南北東西卜其為祥為瑞為德為仁蓋  
其故可得而言不可得而知矣出此觀之吞空老叟日詠  
三千之歌而不為勞者誠不誣為三千風之號也已其餘  
事實顛未盡詳在逆流老人泊梅巖長老詩序無待其贅  
聞於世遂詠古風用羨三千風之歌仙云耳

吞空老叟字友翰更把三千風自名三千風也良有以  
日詠三千歌卒成詠歌所貴風雅頌漢有大風秋風鳴  
古者觀風風於世今者望風賦與賡風也以德為君子  
亦經少女大王評風者天地之所使豈獨二十四番前  
今觀三千風在席花信依然退於棚人皆如逢故人至

不須入節締為盟 曾賢刻限與五步 復有叩銅及先爭  
何似老叟疾如電 不待思惟令帙盈 本朝古有喜撰禱  
法師亦有名西行 滿懷錦繡成歌賦 逢著真堪擲管城  
常聞深入瑞岩室 與主人翁相慰情 無夢無想時丁著  
三千風向何處迎 不從齒頰不從舌 若擬意識即非誠  
夜來八萬四千偈 東坡居士亦悟明 老叟前身即佛印  
不妨前後相經營 行盡仙臺與松島 以及紫陽與神京  
迹似孤雲并野鶴 何處不聞友翰生 高僧時有逆流叟  
咸稱再世古永平 巾瓶有一梅巖氏 不讓近古雲棲宏  
得通境典兼禪淨 尤精詩賦令人驚 老叟不遠路千里  
特來海國始識荆 重結廬山東林社 四威儀中共筆咄  
我於門外聞之遠 欲近歌儻不異音 雖然如盲別有眼







て。河津村尾道をがゆ 草鞋代や城の奇矯の暮れ候 松本 貞久

欄干に終るこころいづ 徒ひいて。花ぞ郊のゆきあり 吉田 疎休

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

「あ乃ねつり自をきくぬぬいしはとこ」と新休 新休

いほくせもろめをきくぬぬいしはとこ」と新休 新休

軒より細き一帯乃自をきくぬぬいしはとこ」と新休 新休

くもむしひき。○る種種 種種

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

二月廿八日 今利焼乃 多物と細を思ひしより。びこころあゝ縁ありと海一が酔。

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

まろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

二十九日 杉岳大和守。坂ふ十町。初基の開始。山上は松林あり。

圓小白山乃神と鎮まじゆ。杉岳といひま。秀吉公奇状あり。

長編。畧。當宿のふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。

かゝり。○空杉やまろひのふぶきのく 餅割の自りある。のころあゝ縁ありと海一が酔。







自中々ぬ乃浦眺あり。連集と儻い。八幡宮小待し。下の松と  
始く。三東の松系。ささくぬ奇業。社歌い。かろく。い  
あむむく。そのと。お侍。志願の島。と。つら。後。良。た。め。新。乃。社。地。と。  
ち。お。方。り。海。乃。中。り。る。 ○ 松。海。や。た。ぐ。の。た。た。り。く。く  
向。外。海。中。へ。七。里。は。り。き  
あり。通。浦。乃。眺。望。回。る  
一。軸。く。奥。野。氏。信。真  
先。里。小。孫。と。記。畧  
○ 當。所。詠。乃。棟。梁。は。寄  
襖。被。り。那。の。記。一。種。也。  
を。向。け。く。三。吟。一。卷。成。  
表。ぐ。り。と。宮。よ。め。し。

○ 翁。管。や。袖。乃。漆。の。よ。ぶ。さ。 三千風  
百。千。乃。鄙。松。成 勝木 浮客  
松。摺。や。総。く。れ。乃。月。を。も 高井 芥賤  
下。草。摺。乃。風。よ。む。じ。じ。

○ どのくひ仰乃句とた  
中ひの中よは宮神も雅  
才の英雄まり。一章一も成くくも。も。の。よ。い。と。く。  
○ 寄。あ。ま。香。空。翁。と。よ。ぶ。生。し。神。路。乃。種。大。信。乃。松。よ。緑。り。り。  
清。流。乃。才。胤。世。の。吟。言。し。風。系。の。哲。師。也。中。古。乃。め。枝。乃。の  
松。よ。よ。く。へ。て。一。第。三。千。乃。額。瓦。乃。嘯。と。く。揚。り。彫。書。肆。乃  
駈。り。吟。詠。乃。自。然。と。才。心。成。つ。も。く。事。款。空。と。も。れ。を。世  
人。字。し。て。三。子。乃。吟。と。吟。せ。て。い。ま。や。び。る。よ。信。師。の。天。和。乃。荒  
木。回。籠。を。向。む。乃。三。子。乃。岩。乃。一。氣。成。吟。部。波。の。松。葉。を。花  
風。乃。天。香。時。成。ま。は。る。と。吟。し。も。の。也。た。も。今。乃。氣。を。信。徳。  
東。都。乃。桃。青。と。れ。い。只。小。短。冊。と。吟。た。ま。ま。り。風。先。生。獨。乃  
吟。を。び。く。ご。り。い。ま。づ。く。は。八。音。乃。器。と。か。ら。れ。も。あ。く。は。化。風。時











觀世音寺。十府樓。天智帝乃舊都うちらるる。やうて宮さへ  
へり。内院安樂寺の廟院とて、白家。なまむ社信ふ十房。社家  
八字。二楹。帝孫のくつり魂とす。富房檢校坊より。例の爐  
筆と深。法案す。御と。 ○安樂寺記。 天智の舟恩乃く。ゆくと  
けり。皇女乃本極を思ふ。正直無心乃一氣と神と。いづ  
悲中道の一程と佛や。多く。げ。理氣。あ。合。い。長。書。一。宮。の。分。  
神。任。心。を。こ。乃。魂。と。也。當。社。 天滿降廟神。よ。ふ。秘。乃。海。号  
ゆ。と。も。あ。り。と。は。は。ら。れ。か。き。れ。あり。密。は。天。玄。息。と。天。格。は。打  
り。と。も。あ。り。と。は。は。ら。れ。か。き。れ。あり。密。は。天。玄。息。と。天。格。は。打  
父。陰。母。乃。荒。神。魂。大。目。遍。照。の。本。は。也。と。も。あ。り。と。は。は。ら。れ。か。き。れ。あり。  
の。紫。冥。の。大。空。位。成。と。り。倍。は。速。悟。同。塵。乃。菅。良。ふ。子。人。世。  
盛。衰。と。れ。は。は。ら。れ。か。き。れ。あり。ひ。は。日。月。い。ま。ま。あ。り。と。も。あ。り。

神。其。ま。の。目。の。の。護。と。世。に。ん。と。や。已。と。直。顛。に。あ。り。と。も。あ。り。  
と。り。ぬ。を。れ。も。福。祐。と。天。の。稟。他。と。修。に。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
その。え。罪。と。天。の。の。う。り。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
小。間。の。獨。り。か。く。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
繩。と。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
言。ふ。心。乃。信。終。と。に。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
や。い。と。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
新。の。菅。神。年。聖。の。神。位。お。侍。と。す。と。教。賢。近。く。の。明。朝。薩。  
天。錫。を。飛。梅。千。里。乃。奇。と。感。ず。老。松。下。根。乃。瑞。成。を。せ。と。於。  
君。と。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
乃。肌。も。相。深。乃。あ。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。  
流。ひ。も。今。の。觀。世。音。寺。乃。種。ゆ。づ。ま。り。と。も。あ。り。と。り。と。利。と。合。り。



事なり。五形ありて一思ひの月ありの月と化して。十府  
橋乃軒より秋の氣をききとて。清浄園林乃陰のうづく。  
朝野の雲を讀園長柳よりとて。體言乃妙法をきく。亦  
法乃ねん。亦中法をいふ。神樂ありて。飛仙の雲をひびく。  
と。信よ天地の氣乃感えとて。佛會身乃雨  
を四海より灑る。清あまの必到。祈る則應ス。慎テ再拜。周長豊  
起朝庭萬歳退。啓向。拍手兩段去。下略

今も心ばりて。神影橋乃本。東風

安樂寺中

快鎮

○宿坊檢校坊院  
居る。亦不連。勢乃

○花はれ。知人。ゆるり。草の菴

三千風

快風

棟梁。接折り。まゝ  
一卷乃第三とて。

のまもさつ。自。電門。しよのり。津。坂。六十所。社僧。二十所。房。別當。

弘有坊。小。極。後。と。柳。山。を。彦。心。乃。ま。は。入。び。し。小。掛。お。す。ま。ら。ら  
あ。那。乃。ま。な。り。お。社。に。住。居。姫。寶。滿。控。現。と。早。と。統。兼。第。一。乃  
氣。山。と。代。く。朝。鮮。國。代。始。と。て。九。國。二。島。阿。ろ。ん。と。新。橋。の  
浦。海。乃。中。道。目。お。下。に。風。え。と。信。回。り。は。神。靈。被。お。た。の。後。よ。小  
に。嶽。と。も。う。ま。山。の。ま。て。あ。ら。は。し。の。ま。也。と。と。て。後。は。信。言。と  
乃。意。深。夫。の。名。祖。の。の。浦。乃。津。神。乃。勝。より。出。航。あり。し。を。よ。  
名。替。と。の。く。南。 ○火。揚。や。る。ま。の。水。尾。電。山  
富山座主  
と。い。は。後。終。一。予。 ○雨。害。お。り。花。は。は。は。乃。し。橋。 弘有  
も。長。編。一。軸。也。略。 ま。る。骨。一。板。お。し。の。氣  
○二十。二。百。八。滿。御。誕生。乃。地。産。宮。さ。う。て。ゆ。る。神。功。自。居。奇。魂  
る。代。と。と。せ。終。へ。と。眷。回。神。生。産。湯。蓋。楠。十。二。摺。あり。は。然。の  
櫻。早。見。川。み。ま。さ。な。寄。あ。ら。回。り。又。仲。良。帝。乃。る。塔。韓











門おぼろぎの跡ひり。一、菅原牛忽然とあり。自尾と陰切。程師へ  
献<sup>ミ</sup>ぐもり。則<sup>ナ</sup>拂<sup>ホッス</sup>子にまうまう。柄<sup>カ</sup>ぐり。位<sup>イ</sup>名<sup>ナ</sup>の辨<sup>ハ</sup>乃<sup>ノ</sup>清<sup>シ</sup>作<sup>サ</sup>。今<sup>イマ</sup>の  
牛<sup>ウシ</sup>尾<sup>ビ</sup>石<sup>シ</sup>持<sup>チ</sup>肉<sup>ニク</sup>付<sup>ツキ</sup>の拂<sup>ホ</sup>子。三<sup>ミ</sup>信<sup>シン</sup>目<sup>メ</sup>乃<sup>ノ</sup>具<sup>ク</sup>寶<sup>ホウ</sup>をり。げ不<sup>フ</sup>移<sup>シ</sup>と奇<sup>キ</sup>  
怪<sup>クワイ</sup>乃<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>記<sup>キ</sup>のま。長<sup>チ</sup>編<sup>ヘン</sup>一<sup>イチ</sup>軸<sup>シヤク</sup>と砂<sup>スナ</sup>も。回<sup>クワ</sup>せ七<sup>シチ</sup>百<sup>ヒャク</sup>船<sup>フネ</sup>本<sup>ホン</sup>成<sup>セイ</sup>立<sup>リツ</sup>。周<sup>シュウ</sup>防<sup>ボウ</sup>  
山口<sup>ヤマト</sup>核<sup>クワ</sup>成<sup>セイ</sup>るよ。一<sup>イチ</sup>宿<sup>シュク</sup>と。道<sup>ミチ</sup>おと<sup>ト</sup>と。とくも<sup>トクモ</sup>と。大<sup>ダイ</sup>内<sup>ナイ</sup>義<sup>ギ</sup>隆<sup>リウ</sup>部<sup>ベ</sup>を  
ほむびるひ。祇<sup>キ</sup>園<sup>エン</sup>流<sup>リウ</sup>水<sup>スイ</sup>いと古<sup>コ</sup>く<sup>ク</sup>と。今<sup>イマ</sup>の<sup>イマ</sup>の<sup>イマ</sup>の<sup>イマ</sup>。四<sup>シ</sup>神<sup>シン</sup>相<sup>シヤウ</sup>應<sup>エイ</sup>地<sup>ヂ</sup>。梵<sup>バン</sup>  
園<sup>エン</sup>八十<sup>ハチ</sup>箇<sup>カ</sup>寺<sup>ジ</sup>。宮<sup>ミヤ</sup>社<sup>シャ</sup>六十<sup>ロクジュウ</sup>基<sup>キ</sup>俗<sup>ゾク</sup>を<sup>ヲ</sup>一<sup>イチ</sup>宇<sup>ウ</sup>。其<sup>ソノ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>乃<sup>ノ</sup>盤<sup>ハン</sup>成<sup>セイ</sup>る。又<sup>マタ</sup>  
く<sup>ク</sup>より長<sup>チ</sup>門<sup>メン</sup>下<sup>カ</sup>萩<sup>ハシ</sup>より。東<sup>トウ</sup>行<sup>キヤウ</sup>寺<sup>ジ</sup>に。一<sup>イチ</sup>宿<sup>シュク</sup>城<sup>シヤウ</sup>廓<sup>カク</sup>景<sup>ケイ</sup>境<sup>キヤウ</sup>海<sup>カイ</sup>と<sup>ト</sup>  
陰<sup>イン</sup>成<sup>セイ</sup>ひく。町<sup>チヨウ</sup>を<sup>ヲ</sup>回<sup>クワ</sup>る<sup>ル</sup>軒<sup>ケン</sup>。さ<sup>サ</sup>りよ。一<sup>イチ</sup>級<sup>キヤク</sup>と。書<sup>シヤク</sup>と。並<sup>ナラビ</sup>る<sup>ル</sup>ありとく。  
○風<sup>フウ</sup>堂<sup>ドウ</sup>位<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>ま。心<sup>シン</sup>法<sup>ホフ</sup>試<sup>シ</sup>せ<sup>セ</sup>ほく<sup>ホク</sup>と。と。萩<sup>ハシ</sup>東<sup>トウ</sup>行<sup>キヤウ</sup>寺<sup>ジ</sup> 考<sup>コウ</sup>尹<sup>イン</sup>  
出<sup>デ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>より乃<sup>ノ</sup>修<sup>シュウ</sup>波<sup>ハ</sup>後<sup>ゴ</sup>不<sup>フ</sup>萩<sup>ハシ</sup>乃<sup>ノ</sup>津<sup>ツ</sup>

○人丸 陽まご五月一日。石見系濃郡。田村左小野とのへ

所<sup>トコロ</sup>の社<sup>シャ</sup>のま。世<sup>セ</sup>信<sup>シン</sup>より。今<sup>イマ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>す<sup>ス</sup>。祖<sup>ソ</sup>賀<sup>カ</sup>多<sup>タ</sup>。羅<sup>ラ</sup>衣<sup>イ</sup>と  
い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。婦<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>家<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>園<sup>エン</sup>示<sup>シ</sup>持<sup>チ</sup>あり。け<sup>ケ</sup>陰<sup>イン</sup>に<sup>ニ</sup>化<sup>ケ</sup>童<sup>ドウ</sup>あり。是<sup>シ</sup>則<sup>ナ</sup>に<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>あり  
や<sup>ヤ</sup>と。但<sup>タ</sup>人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>系<sup>ケイ</sup>圖<sup>ト</sup>あり。秘<sup>ヒ</sup>事<sup>ジ</sup>あり。信<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>筆<sup>ヒツ</sup>符<sup>フ</sup>石<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>形<sup>ケイ</sup>  
あり。使<sup>シ</sup>も<sup>モ</sup>小<sup>コ</sup>橋<sup>ハシ</sup>か<sup>カ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>に<sup>ニ</sup>本<sup>ホン</sup>あり。ち<sup>チ</sup>り<sup>リ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。是<sup>シ</sup>より三<sup>サン</sup>里<sup>リ</sup>と<sup>ト</sup>  
る<sup>ル</sup>津<sup>ツ</sup>よ入<sup>イル</sup>。清<sup>シヨウ</sup>庵<sup>アン</sup>所<sup>所</sup>。人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>寺<sup>ジ</sup>小<sup>コ</sup>宿<sup>シュク</sup>と。當<sup>トウ</sup>必<sup>ヒツ</sup>津<sup>ツ</sup>乃<sup>ノ</sup>本<sup>ホン</sup>守<sup>シ</sup>清<sup>シヨウ</sup>崇<sup>シュウ</sup>  
敬<sup>キヤウ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>。系<sup>ケイ</sup>信<sup>シン</sup>成<sup>セイ</sup>ん<sup>ン</sup>と。松<sup>マツ</sup>山<sup>サン</sup>風<sup>フウ</sup>光<sup>クワウ</sup>乃<sup>ノ</sup>地<sup>ヂ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>た<sup>タ</sup>め<sup>メ</sup>。と。あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>別<sup>ベツ</sup>院<sup>イン</sup>を<sup>ヲ</sup>  
の<sup>ノ</sup>ぼ<sup>ボ</sup>く<sup>ク</sup>ら<sup>ラ</sup>。雪<sup>ユキ</sup>移<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>。食<sup>シヨク</sup>乃<sup>ノ</sup>朱<sup>シュ</sup>籠<sup>リウ</sup>。奇<sup>キ</sup>扉<sup>ヒ</sup>光<sup>クワウ</sup>耀<sup>ヤウ</sup>と<sup>ト</sup>り。あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>よ。人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>社<sup>シャ</sup>  
と<sup>ト</sup>額<sup>ゲツ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>る<sup>ル</sup>ま。日<sup>ニツ</sup>元<sup>ゲン</sup>宮<sup>ミヤ</sup>。輪<sup>リン</sup>王<sup>オウ</sup>寺<sup>ジ</sup>。二<sup>ニ</sup>品<sup>シン</sup>守<sup>シ</sup>全<sup>ゼン</sup>親<sup>シン</sup>王<sup>オウ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>筆<sup>ヒツ</sup>。信<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>  
人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>本<sup>ホン</sup>像<sup>ゾウ</sup>乃<sup>ノ</sup>長<sup>チヤウ</sup>四<sup>シ</sup>尺<sup>シツ</sup>。守<sup>シ</sup>則<sup>ナ</sup>御<sup>ミ</sup>自<sup>ジ</sup>作<sup>サク</sup>なりと。信<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>  
い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。り<sup>リ</sup>ら<sup>ラ</sup>。と。世<sup>セ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>す<sup>ス</sup>。乃<sup>ノ</sup>圖<sup>ト</sup>形<sup>ケイ</sup>なり。信<sup>シン</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>  
と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。人<sup>ニ</sup>丸<sup>ニ</sup>社<sup>シャ</sup>む<sup>ム</sup>。一<sup>イチ</sup>は<sup>ハ</sup>神<sup>シン</sup>一<sup>イチ</sup>里<sup>リ</sup>に<sup>ニ</sup>鴨<sup>カモ</sup>の<sup>ノ</sup>池<sup>チ</sup>  
乃<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。が<sup>ガ</sup>り<sup>リ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>。津<sup>ツ</sup>乃<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>す<sup>ス</sup>。乃<sup>ノ</sup>池<sup>チ</sup>乃<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>











長命之神も憐れむとや。八咫乃あを風は静くもあつげとよ。  
影もさげ神乃登り阿須波命の影行をめぐらむとよ。予  
も小葉ごとくして。登るる乃あはる神よと古きとどめてはあ  
の浪もくもゆつろぐ。鷲栖のちたよ。神舎幣屋もはやくと  
あり。くろまん社。授神乃齋。千島。北島。西島。の園造を雲井曾  
として。環乃恒代もつぎとあよめてよ。かきとむも影く八室  
乃をらんま。いざなほのほのちの影もつるゆゆ神の廣海

貞享二年中幹

崇貞軒三千風散

○月神寄海眺 人いざなほの海大乃乃異島奇岩の目を  
とくさてるともや。芦乃の影もくを船。風幕浪草伐  
あはれと。捨標とりも。挿髪燕きたあやめ。なとくも人指  
て。何の彼らや。ち乃のくもあめ。この嶮岬のま。龜甲乃伎

せう。比神乃乗るりや。海もふと合とあす。とらひおはゆ  
船。転ふるして。こころぼはくくう。あまにくや。環乃八百金小  
ゆと津津。ば雨可く吞。天牟や。つむ。つでその可。ころ  
あやげ。あつら。も。ふ。大社乃神の乳るあり。今も味  
あつら。細川。幽斎翁の詠よ。あつら。あつら。いま。乳とのま。登  
乃。子の可。ころ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。  
り。も。つ。ば。例。も。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。  
く。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。  
潜。女。乃。則。掲。く。白。給。良。船。は。睡。蛇。や。う。乃。も。の。捨。つ。ら。い。さ。と。  
あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。  
靴。志。乃。演。の。く。古。乃。大。む。り。掃。毛。乃。八。合。天。鳩。船。の。あ。つら。と。も。ま。つ。  
繩。乃。と。く。天。真。魚。味。と。物。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。あ。つら。と。も。ま。つ。

卷第四  
〇三二











